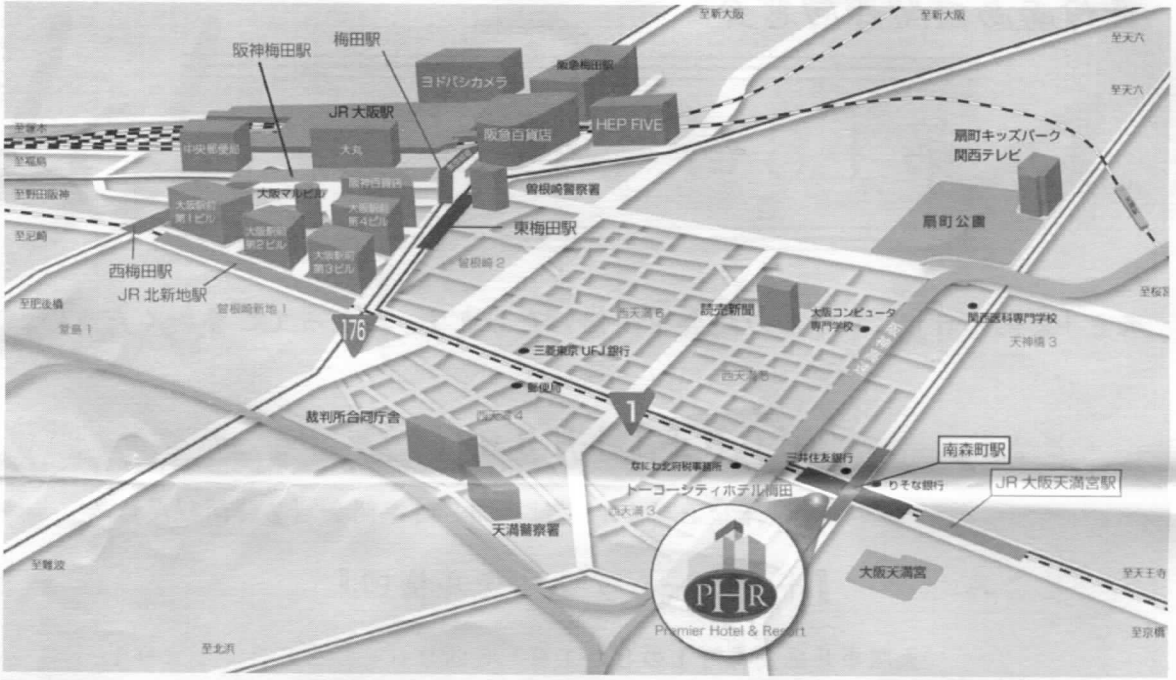
Ishi Datami

いしだたみ

神戸で開催した昨年の総会。旧居留地ならではの雰囲気の中で盛り上がりました

長崎南高校関西同窓会　２００６年秋

《会場案内図》



大阪市営地下鉄谷町・堺筋線の南森町駅　２号出口真上

ＪＲ東西線の大阪天満宮駅から徒歩１分

幹事からのお願い

福引き用景品を募集します。ご提供いただける方は当日、総会会場にご持参下さい。また、あらかじめ事務局（表紙ご参照）でお預かりすることも可能です。総会盛り上げのため、ぜひご協力をお願いします。

★平成１７年度の会計報告★

収入		支出	
繰越	1,659,334	ホームページ作成	49,780
利子	57	同窓会出席（東京、福岡）	75,060
総会費	475,168	印刷代	101,850
同窓会	112,000	送料、葉書、シール代	106,217
		長崎同窓会送金	20,000
		総会費	400,000
		諸費用（総会写真、景品、等）	26,311
		支出合計	779,218
総計	2,246,559	来年度繰越	1,467,341

第１６回総会を前に

長崎南高関西同窓会
会長　大石　哲史　（７回生）

私のふるさとは？・・・・・生誕地はもちろん長崎！

もっとも両親は共に平戸の出身で父が復員後、長崎に出てきて結婚。

私が第一子で、生まれた当時は、新大工町の玉屋の前の今は無き天満市場の３階の借間。出産場所は榎津町の大野産婦人科という所（ここは榎津東映という時代劇をよく上映していた映画館のすぐそばだった）らしい。その後、私が生まれてまもなく上小島町に転居。これが今となれば南高との縁に繋がったものと思います。

十数年住み、私が小島小学校５年を終えた時、父の転勤に伴い対馬の厳原へ。４年後の高校入学のタイミングで再び長崎市内に転居し坂本町から南高へ入学。そこは１年足らずで次に平和町に引越してここで南高を卒業。それからは家を出て大学そして就職。この間に親は橋口町（平和祈念像のすぐ後ろ側）に変わり、今はここが私の帰る所、つまりふるさとであります。

いよいよ私の都会での会社員生活も既に３０年を超えました。仕事はともかくとしても、「人生の充実」を思う時、人それぞれというものの、やはりふるさととの関わりを除いては考えられないのではと思います。

最近よく「定年後の田舎暮らし」がテレビでも取り沙汰されます。養老孟司氏は、『都会は頭で田舎は身体である。田舎がなければ都会は成り立たない。』とも言っています。もちろん、私にとっての田舎はふるさと長崎（決して田園風景のどかな、いわゆる田舎とは言えませんが・・・）です。本来人間の身体は自然体なので、自然の中に置いてやると本来の人間の生気を取り戻すと考えられています。ここでいう自然とはふるさとと読み替えても良いと思います。田舎（ふるさと）に行くことによって、明日へのエネルギーが生まれ、そして希望が膨らむことになるのならば、何も定年後でなくとも現役世代こそふるさととの関わりが必要なのかも知れません。

関西同窓会は、いよいよ今年で第１６回目の総会。１６歳といえば何と高校１年生なんです。同窓生の皆さん！あの崎陽ケ丘の校門をくぐった頃を思い出し、タイムスリップさながらここ関西でふるさと長崎という自然に身を置く気分を味わいませんか。

帰国報告

古川　源蔵　（１回生）

皆さんお元気でいらっしゃいますか。日本の“短い”夏が終わり、“長い”冬が始まろうとしています。夏１００％のマレーシアでの６年間の駐在を終え帰国したのが昨年の１１月、いきなり冬の真只中に放り込まれました。

温度差は２５～３０度ありました。直後、定年。相前後して個人的に悲しい出来事があり帰国後は肉体的にも精神的にも少々長いリハビリを必要とする状態でした。定年後は嘱託として会社に残らせてもらいリハビリを継続（？）しております。おかげさまで最近は元気を取り戻し、いろいろな事に又積極的にチャレンジしていこうという気持ちになっています。

今振り返ると毎日の何気なく当たり前に流れていたことが懐かしく思い出されます。毎朝５時４５分頃、近くのモスクから流れてくるコーランの声で目を覚まします。会社の中にも礼拝所を設けています。国教はイスラム教で６割強のマレー人、２割強の中国系と１割弱のインド系で構成されています。

そのモスクの近く、我が家から歩いて３分のところにスンガイペタニカントリークラブがあります。街の真ん中のクラブの中にゴルフ場があり、上流社会の社交の場です。７５年前、イギリスの植民地時代にスコットランド人が創設したということですがコロニアル風のクラブハウスでパブ、ダート場、レストラン、カラオケルームがあります。イギリス風のクラブライフを色々なアジアの英語を聞きながら楽しむ事ができました。マレーシアでイギリス文化の一端に触れられたのは想定外の新鮮な発見でした。

クラブの総会に参加しで議論を聞く機会がありましたが議論が始まったらインド系、マレー系、中国系の人たちの議論がかみ合わないのが面白かった。私には大体何を言わんとしているかが分かりますが腹芸が通じない世界でした。

イギリスの植民地だったせいで交通システムも日本と同じ左側通行です。近隣のタイやインドネシアと違ってインフラはしっかりしています。女房もマレーシアでの生活をエンジョイしたようです。ゴルフをやっていたおかげで色々な民族のお友達ができてその友達とあちこちによく旅行していました。近所のマレー人の家族の中へも覚えたてのマレー語で入っていってマレー人の生活を目の当たりにしていました。

マレーシアの話になると話がつきませんが御無沙汰いたしております皆様への少々遅い帰朝報告とさせていただきます。有難うございました。

（２００６年９月）

お隣の長男の結婚式で

第１３回生同窓会に出席して

岩永　和弘　（１３回生）

８月１２日（土）、ホテルニュー長崎にて卒業３０周年を記念して第１３回生同窓会が開催されました＝**写真下**。長崎帰省にあわせ、出席して来ましたので報告致します。

当日は１３回生５８５人中、全国から約１５０名の卒業生が出席。１１名の先生にもご出席頂き、大盛況の中、恩師、友人との３０年振りの再会。

「おう、久しぶりやがね」「あれ？誰やったかね？」「なんば言いよっとね。〇〇たい」「えー！〇坊（あだ名）ねー。変わったねぇー（又はじぇんじぇん変わっとらんねー）」などの会話があちこちから聞こえてくる。

会場の至る所で熱気ムンムン、皆それぞれに感動の瞬間が訪れていた。１次会の時間もあっと言う間にすぎてしまい、余韻覚めやらず、皆思案橋への２次会会場へと流れていった。今回はちょうどお盆の時期にあわせて開催して頂いたことでたくさんの出席が得られ、極めて充実した同窓会でありました。同窓会幹事の方、準備にご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

×　　×　　×

さて、帰省ついでに県の情報誌「ながさき夢百景」を読んでいたら、長崎の坂を舞台にした映画が紹介されていましたので、早速、自宅に戻ってからレンタルで観てみました。その映画「いつか読書する日」では架空の町を舞台にしていますが、なんと、なつかしい風景があちこちにでてくるじゃありませんか。

映画にでてくる「病気の奥さんのベッドがある部屋」は西脇病院の院長の自宅（スポーツセンターから南高方向を見た、旧街道沿いの家）だし、南高生にとってなつかしい上小島、桜木町等の風景があちこちに。映画自体も、とても含蓄のある内容の素晴らしい出来で、昨年のモントリオール映画祭の審査員特別賞（準グランプリ）を受賞した作品だそうです。

レンタルショップにこの作品が置いてありますので、まだご覧になってない方は一度観られる事をおすすめします。きっと新しい何かが発見できますよ。

「いつか読書する日」（２００４年）
監督：緒方明、主演：田中裕子

みなさん、「探鳥句会」に入会してみませんか

木谷　荘一　（６回生）

それまで同窓会というものを煙たがっていた私でしたが、ひょんな事から関西同窓会の６回生の集まりに参加する機会がありました。その際誘われたのが探鳥句会に入会するきっかけとなりました。会員の方からのお誘いもさることながら、同総会に初めて参加してみて、これに限らずこのような集まりに参加して交流を広げるのも悪くはないなという思いが湧いてきたこともお誘いに乗る手助けとなりました。

入会してから約３年半が経過しましたが、最初の１年位はいわゆる「ガメンチョロ」みたいな存在でしたね。自作の句は持たずに参加して、会員の皆さんが作ってきた句を一緒に評価するだけでしたが、俳句を鑑賞する面白さを教わりました。そのうち、「そろそろ句を作って来んばいかんよ」というお声がかかるようになってきましたので、いろいろと試みては見たのですが、「言うは易く作るは難し」でなかなかできないのです。捻るどころか、絞っても出てこない状態に陥ってしまいました。当然ながら、何かと理由をこじつけて欠席するようになってしまいました。まさしく落ちこぼれの典型的なパターンですね。

しかしながら、今では１カ月かかって作った僅かな句をしたためて句会には毎月出席するようになるし、勧められるままに俳句に関する書物や月刊誌を読んだりするようになりました。ようやく低いけれど一つのハードルを越えたところでしょうか。

「探鳥句会」の会員は、初心者に毛が生えたような私から、複数の句会に参加している人まで千差万別の構成ですが、一番の自慢は、お師匠の松永典子さん（３回生）といい、「沖」句会で活躍されている大島雄作さんといい、俳句の世界では一目置かれる御二方のご指導に恵まれていることです。だからといって句会の雰囲気は肩苦しいものではありません。時を見計らってまぜっかえす役目の方もおり、メリハリの利いた雰囲気の中で、第４土曜日の午後はあっという間に過ぎてゆきます。

こんな懐が深い句会って滅多に有りませんよ。皆様のご参加をお待ちしておりま～す。

会報目次

Ｐ１	第１６回総会案内	
Ｐ２	会場案内図、会計報告	
Ｐ３	総会を前に	会長　大石哲史
Ｐ４	帰国報告	古川源蔵
Ｐ５	第１３回生同窓会報告	岩永和弘
Ｐ６	探鳥句会に参加しませんか	木谷荘一
Ｐ７	会報発行によせて	長崎県大阪事務所
Ｐ８	写真＝昨年の総会から	

会報発行にあたり、長崎県大阪事務所長の渥美様に寄稿していただきました
厚くお礼申し上げます（事務局）

会報誌の発行に寄せて

長崎南高関西同窓会会報の発行にあたって、一言ごあいさつを申し上げます。長崎南高関西同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げますとともに、日頃より、郷土長崎の発展のためにお力添えをいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

長崎県大阪事務所は、長崎県庁の県外出先機関のひとつとして、東京や福岡事務所と同様、大都市部を対象に、ふるさとの観光ＰＲや県産品の販路拡大、及び長崎県への企業誘致などに取り組んでおります。当事務所のスタッフは、所長の私を筆頭に、嘱託員や県企業誘致推進本部プロパー等を含めて７名が常駐しており、全員が長崎県の看板を背負った歩く広告塔として、関西・東海地区を中心に東奔西走しております。

さて今回は、まもなく開催される長崎県に関連したイベントをご紹介いたします。

来る１１月１日より１か月間にわたって、主に大阪府内の１００店舗を超える外食店において、長崎から直送した新鮮な農・水産物を使った献立をメニューとしてお客様に提供し、関西地区の方々に長崎の食をおいしく召し上がっていただく「長崎県食材フェア」を開催いたします。

この取り組みを契機として、安全で安心な長崎県産品の市場を広げてまいりたいと考えております。開催の折りには、ご家族やお友達をお誘い合わせのうえご来店され、思う存分ご堪能くださいますようお願い申し上げます。

長崎市で開催中の「長崎さるく博」は、閉幕まで残り１か月となりました。開幕以来、県内外の多くの皆様が長崎をお訪ねになり、長崎歴史文化博物館や出島オランダ資料館等の見学、また長崎市の津々浦々を散策することによって、長崎の歴史や文化について再認識されたことと存じます。

１０月は、長崎っ子が胸躍る秋の長崎を代表する「長崎くんち」が開催され、また来年２月には、中国の春節に時を合わせて「長崎ランタンフェスタ」が開催されます。このフェスタは、約１万５千個の中国提灯や各種オブジェが長崎の夜の街を鮮やかに彩り、近年、冬のイベントとして定着してまいりました。

このような魅力満載の長崎を発信することによって、訪れる観光客がさらに増加し、にぎわいにあふれる郷土長崎を構築してまいりますので、これからも暖かいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成１８年１０月

長崎県大阪事務所長　　渥美 輝夫

長崎南高校関西同窓会

第１６回総会のご案内

来る「文化の日」に本年度の総会を開催いたします。ふるってご参加ください。

とき　　２００６年１１月３日（金）

午後３時から受付、同３時半開会（２時間程度）

ところ　　『トーコーシティホテル梅田』

大阪市北区南森町１の３の１９　電話０６－６３６３－１２０１

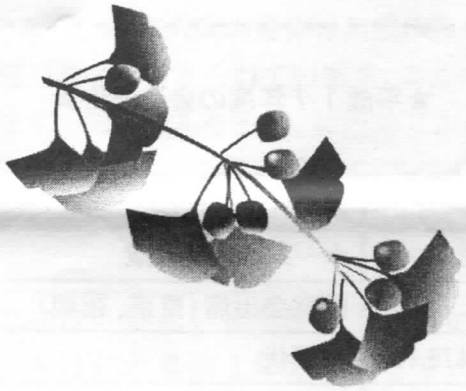
（次ページに案内図）

参加申し込みは１０月１３日必着

会費　　男性：８０００円　　女性：６０００円　　学生：無料

年会費　　２０００円（お振り込みいただいていない方は、当日お願いします）

※なお、２次会も予定しています



《主催》

長崎南高校関西同窓会事務局

大阪市中央区北浜２の３の６　北浜山本ビル３階　松本藤一法律事務所内

電話０６－４７０７－８５１８　ＦＡＸ０６－４７０７－００３８

http://www.kansai-ishidatami.net/